

[041] ICER Newsletter

<https://hdl.handle.net/2324/2348728>

出版情報 : ICER Newsletter. 41, pp.1-, 2019-10. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

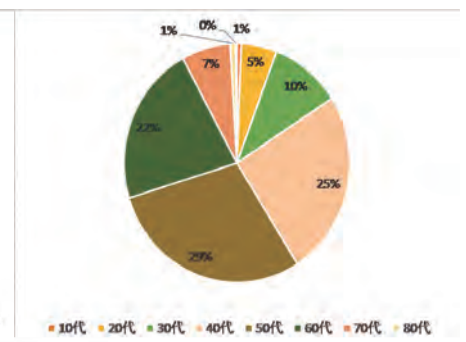
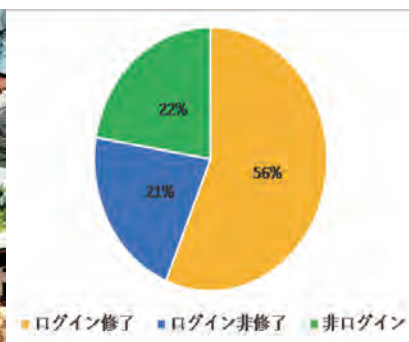
JMOOC「豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に—」開講実施報告

教材開発センターが制作した第6弾MOOC講座「豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に—（図左）」は、九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センターの三谷泰浩教授が講義をご担当になり、2019年7月25日～8月22日にわたりJMOOCにおいて開講しました。今号はその受講結果を速報します。

まず受講者数と修了者数についてですが、受講者数は、734名であり、うち修了者数は413名でした。修了率は56.3%という、非常に高い値を示しています（図中）。この値は九州大学がこれまでに開講した講座の中で最も高く、さらに、利用したプラットフォーム(OpenLearning)で開講された講座の中でも最も高い値だそうです。近年の日本国内外における自然災害の頻発によって、災害対策への関心が高まっていることを反映しているのかもしれませんが、また、受講後のアンケート調査におけるコース評価に関しても、「大変満足」と「やや満足」を合わせて92.3%という非常に高い評価を受講生の方から頂いています。本講義は、日本国内の豪雨災害をテーマとしたものでしたが、受講者は、英国、フィリピン、ドイツ、オーストラリアなど、世界の多様な国から計16名が受講しており、国外の受講者であっても、一般的に言われるMOOCでの10%以下という修了率(e.g., Alrami & Ciganeke, 2015)よりも高い37.5%という修了率を示していました。最後に、受講者の年齢層は、40代以上の受講者が80%以上を占めており、本講座が生涯教育に貢献し、社会人に九州大学での学びを体験する機会を提供していると考えられます（図右）。

教材開発センターでは、今後も学習者に良質な学びの場の提供をしたいと考えています。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

【大井 京准教授】



「オンライン学習の可能性と課題」 参加報告

9月27日に名古屋大学教育基盤連携本部主催で開催された高等教育システム開発部門シンポジウム「オンライン学習の可能性と課題」に教材開発センターの大井が話題提供者の一人として参加してきました。本シンポジウムのテーマは、「組織的にオンライン学習を取り入れる際に生じる諸課題」です。京都大学高等教育研究開発推進センター長の飯吉先生による基調講演では、「大学教育イノベーションとICT活用のための未来戦略」と題して、オンライン高等教育の世界的な現状と課題をご紹介頂きました。また、3名の話者提供者として、北海道大学情報基盤センターの重田先生による「オンライン教育のコンテンツをどうつくるか」、教材開発センターの大井による「オンライン教材の開発を組織はどう支援すべきか」、名古屋大学教養教育院教養教育推進室の山里先生による「名古屋大学におけるオンライン教育の支援体制」の報告がありました。最後に、「オンライン教育に不向きな授業をどう導入するか」など、会場からの多数の質問を全登壇者が受ける形で活発な討論が行われました。当シンポジウムでは、教材開発センターがオンライン教育において教材開発支援の形で果たす貢献をご紹介し、多くの参加者の方と現状の課題を検討する良い機会を与えて頂きました。

【大井 京准教授】

2D/3D 教材開発システムのご紹介～ Vol.7～

「360度VRカメラ」

魚眼レンズが2個あるいは複数個付いたカメラを360度VRカメラといいます。魚眼レンズの半球画像を複数枚貼り合わせて正距円筒図法画像を生成することで、任意の方向から見た画像を生成表示できます。あたかも自分がカメラのある場所に居るような錯覚を与えることができます。

360度VRカメラを使うことで、講義や講習会・演習の様態を非常に高い臨場感のある動画(360度VR動画)として撮影できます。ワークショップ形式の授業における振り返りに活用することもできます。

教材開発センターでは、顔画像認識やジェスチャ認識の機能を加えることにより、授業の振り返りを効率よく行えるシステムの開発を行っています。利用可能となりましたらご案内いたしますので、乞うご期待下さい。



教材開発センターが所有している360度VRカメラは、KANDAO Obsidian S (図左上段)、Insta 360 Pro (図右中段)とRICOH THETA V (図左下段)です。電子教材開発に限らず研究目的でのご利用も可能ですので、是非ご活用下さい。

教材開発センターでは、下記の機材を貸し出しています。
先生方の講義資料の作成や講義収録にお使い下さい。

【再掲】

～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～
お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから
www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply

- ① デジタル顕微鏡 ② 光学式モーションキャプチャー装置
③ 3D スキャナー ④ 3D プリンター ⑤ ハイスピードカメラ
⑥ 視線追尾装置 ⑦ 360度VRカメラ ⑧ 講義収録配信システム

「電子教材開発に係るニーズ調査」にご協力を!!

本センターの主な活動は、講義等ビデオの撮影・編集・公開、MOOC(Massive Open Online Course)制作、本学代表的研究者紹介ビデオ(動画版「先生の森」→森の映画館)の制作、ICTを活用した電子副教材の開発およびその支援、著作権等電子教材の開発に係る各種講習会の開催です。最先端のICTを活用した学習効果の高い電子教材の提供により教育の質を改善するため、積極的に本センターをご活用下さい。

本センターの支援を必要とされている案件を調査するため、電子教材開発に係るニーズ調査をさせて頂くこととしました。以下の方法・期間によりニーズ調査を実施する予定です。是非、ご回答いただけますようご協力の程よろしくお願いいたします。

回答期間：11月1日(金)～29日(金)

電子教材開発ニーズ調査のページURL：www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20191101



<http://content.icer.kyushu-u.ac.jp/web/3RESQ/PS/StudentLifeSelfCheck20171106/>

【再掲】